鳥のクラミジア症(オーム病）の豆知識

鳥のクラミジア症はオーム病クラミジア（Chlamydia Psittaci)が原因菌です
クラミジアは細菌の一種ですべての鳥が感染する可能性があります
接触・吸入・経口感染により感染を受けます
ペットの鳥では　インコ類に多いようですが
それ以外ではハト・アヒル・ニワトリに保菌率が高いようです

感染を受けても鳥はほとんどは不顕性感染で無症状ですが
便や鼻汁中に多数のクラミジアを排泄し始めます
クラミジアは乾燥や酸・アルカリに強く
排泄されても体外で数ヶ月は感染力を持ち続けます
ひな鳥に初感染が起きると一部は死亡しますが
残った鳥は保菌鳥となります

鳥はいろいろなストレス（輸送・産卵・不適切な環境など）
栄養不良により発症します
発症すると無気力・食欲低下・元気消失・目や鼻腔からの分泌物増加
緑灰色水様便・粘液便などの症状がおきます
早期治療で回復する可能性はありますが
死亡率は高く　突然死もあります

人は感染鳥から排泄物とともに多量のクラミジアが排泄され
その乾燥物を吸引したり　口などの粘膜を介して
感染鳥との直接経口接触などにより感染を受けます
1～2週間の潜伏期の後
突然の高熱・悪寒・咳・呼吸器疾患・筋肉痛などの
インフルエンザ様症状を発症します

鳥はいつも清潔に扱い　毎日のケージの掃除
栄養管理を考え　ストレスをさけるなどして
健康的に飼うことが　予防になり発症を抑えることのようです
野外の鳥には密接に接触しないなどに注意して感染を防ぎましょう